合気道開祖、植芝盛平翁と加納治五郎

講道館柔道創始者加納治五郎先生が、昭和５年(1930)に突然に目白にこられ、植芝盛平先生の合気道の稽古をご覧になったと、後に、植芝盛平先生が言っておられる。

植芝盛平翁真話

嘉納先生は私の技をご覧になって「これこそ私が理想としていた本当の柔道だ」とおっしゃり、それから数日後

昭和５年10月28日付講道館　館長　加納治五郎先生より一通の書状とともに、講道館の高弟である、　望月　稔・武田二郎　二名の弟子を植芝盛平先生のもとへ入門させた。

植芝盛平翁は

野にあって北海道の開拓に努力し、「武農一致、神仏人一体」となって、修行に励まれ、道を開かれ真人である。

合気道は、小戸の神技、つまり禊(みそぎ)であると、とかれている。

そして今日、国内外で合氣道は、「動く禅(ぜん)、又は、動く瞑想法(めいそうほう)」と言われている。